



～枕崎市教育委員会だより～

TEAMまくらざき

発行 枕崎市教育委員会
枕崎市中央町 184 番地
TEL 0993-72-0170
FAX 0993-72-0677

巻頭言

しつけ

枕崎市教育委員会 教育長 木之下 浩一

2学期が始まった。今年は、例年に比べて夏休みが長かったので子供たちが学校生活に馴染めるか心配したが、小学校では再度、学校生活の決まり事を確認し、元気に2学期のスタートを切ることができたと聞いている。また、中学校の体育大会では競技にかかる情熱や爽やかな演技を見ることができた。

さて、最近、学校から「子供たちへの指導が難くなった」という声を聞くことが増えた。授業中の態度、挨拶、言葉遣い、時間を守ることや人の話の聞き方、友達との関わり方、物を大切にすることなど、以前なら家庭や学校で当たり前のように教えてきたことが、今は一つ一つ丁寧に説明し、指導する必要があるという。

もちろん、時代の変化に即して子供たちを取り巻く環境や価値観も変化する。しかし、人が共に社会生活を送るうえで必要な基本的な姿勢まで変わって良いわけではない。私は、「子供を大切にすること」と「子供の言うことを何でも受け入れること」は明確に異なると考えている。子供に嫌われるから注意しない。反発されることを恐れて指導すべきことを指導しない。それが本当に子供たちのためになっているのか、改めて子供を主体に考える必要がある。

保護者には、我が子が一人前の大人になるために必要なことを責任を持って指導していただきたい。子供が失敗したときは、保護者が先回りして解決するのではなく、「なぜそのような結果になったのか」「次はどうすればよいのか」等を子供自身に考えさせることが重要である。子供を守るということは、子供の前から困難を取り除くことではない。「それはしてはならない」「人に迷惑をかけたならきちんと謝りなさい」と、保護者が毅然と指導することが真の愛情であると思う。また、学校から我が子について厳しい話をされたときこそ、冷静に受け止めて我が子のことを心から思ってくれているのだと感じていただきたい。家庭と学校が子供の前で対立してしまえば、最も困るのは子供である。「学校と家庭が協力して、この子を育てていこう」という強い決意を共有し、子供にその姿を見せていくことは大切なしつけだと考える。しつけとは、子供を型にはめることではなく、子供自身の中に自分を律し、人生を歩んでいくための土台を築かせることである。挨拶の励行、時間を守る、約束を守る、悪いことをしたら謝罪する、人を思いやる心、最後までやり遂げる力等々。これらは、他者と共に生きるための「人生の基本」である。こうした力は学習にもつながる。しつけと学力は別ではない。生活習慣や規律、他者を尊重する心など「学習のしつけ」が学びの土台になる。

ところで、現在、学校現場では、保護者からの苦情や指導に対する誤解、さらにはハラスメントなどを懸念し、教師が子供への指導をためらってしまう場面もあると聞く。当然、行き過ぎた指導は許されないし、子供の人格を否定するような指導や感情に任せた指導があってはならない。しかし保護者から「何か言われるかもしれない」「苦情が寄せられるかもしれない」という理由だけで、必要な指導まで避けてはならないと思う。教師には教師にしか担えない役割がある。それは子供の将来を見据え、今必要なことを責任を持って指導することだ。私はそこに教師の「胆力」が必要だと考えている。胆力とは強く叱ることではない。「この子の将来のために、今、指導しなければならない」。そう信じ、逃げずに向き合う力だ。一人の教師が単独で対応するのではなく、学年で、学校全体で保護者との信頼関係を醸成しながら、子供を導き、育てていくことが重要である。何より大切なことは大人が逃げないことだ。保護者は保護者として、教師は教師として、管理職は管理職として「育てる者としての責任」を果たす。そんな「覚悟」が求められる。子供は大人の姿をよく見ている。大人が困難に向き合い、間違えば謝り、責任を果たす姿から子供は学ぶ。だからこそ、子供を変える前に、私たち大人が当たり前のことは当たり前に言い、姿勢を正すことが大事である。

「覚悟」ある先人に育てられ、一人前の大人になれた私たちが先人にできる恩返しは目の前の子供をしつけて、正しい道に進ませ、子供の未来を保証してあげることではないだろうか。

10月の行事予定		
日	曜	行事
1	木	秋の教育相談① 第19回中体連駅伝大会 かこしまCS・地域学校協働活動研修会(知覧)
2	金	秋の就学相談②
3	土	
4	日	
5	月	定例教育委員会 図書館休館日 SOSの出し方・受け止め方研修(～8日)
6	火	枕崎中学校修学旅行(～8日) 読書感想文コンクール審査会 第3回新規採用養護教諭等研修(教セ～8日)
7	水	小学校体育主任研修会
8	木	市教務主任等研修会① 小学校陸上記録会 マインドカフェ子供の心を支える講座(知覧)
9	金	第2回南薩地区小中義務教育学校教頭研修会 (加世田) 第3回南薩地区栄養教諭等研修会
10	土	
11	日	
12	月	スポーツの日
13	火	図書館休館日
14	水	地区館連絡会⑦ 地区中体連新人大会(～19日) 南薩地区社会教育関係委員会(知覧)
15	木	学校図書館司書研修会② 生涯学習フェスティバル企画委員会
16	金	市民あいさつ運動 市養護教諭研修会③ 二十歳のつどい実行委員会①
17	土	青少年育成の日 市子ども会大会(別府小)
18	日	市民運動会 家庭の日 市民会館休館日
19	月	図書館休館日 教育委員・教育委員会枕崎中学校訪問
20	火	公民館運営審議会 すくすく講座 県下19市学校課長会(始良市 ～21日)
21	水	望ましい学校づくり審議会
22	木	就学時健康診断① 館内整理日(図書館) 地区人権・同和教育研究大会(知覧) 県小中一貫教育及びコミュニティ・スクールフォーラムin出水市
23	金	市校長研修会③ 南薩地区道徳教育研究会(万世中)
24	土	市総合文化祭展示部門 (～11/3 南浜館 市民会館) 県スポーツ推進委員研究大会(川辺)
25	日	県民レクリエーション祭(川辺)
26	月	図書館休館日 高齢者学級市外研修① 南薩地区指導主事等会議
27	火	県教委との意見交換会(鹿児島市)
28	水	教育支援委員会③ 重年祭り(～29日) 南薩地区PTA会員等教育講演会(金峰) 高齢者学級市外研修②
29	木	就学時健康診断② 生涯学習フェスティバル実行委員会
30	金	かこしま「教育の情報化」フォーラム(鹿児島市) 南薩地区栄養教諭等研修会(南さつま市)
31	土	全国子ども会育成中央会議・研究大会・九州地区 子ども会育成研究協議会鹿児島大会 (～11/1)

令和 8 年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

令和 8 年 4 月 23 日（木）を基準日として、小学校 6 年生と中学校 3 年生を対象に実施されました。この調査は、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的として行われています。毎年実施の国語、算数・数学に加え、中学校英語が 3 年ぶりに実施されました。

学力調査の結果は表のとおりです。小・中学校ともに、全ての教科において全国の平均正答率を下回っており、中学校英語のみが県の平均正答率を上回っているという結果でした。

学習状況調査（学習意欲や生活の諸側面等に関する質問調査）では、小学校では「学校や地域の図書館を積極的に活用する」、中学校では「ICT を学習で積極的に活用する」等の項目が、全国・県の平均を上回っていました。一方、小学校における「自己肯定感」に関する項目の低さが顕著となっています。今回の結果を受け、本市の小・中学校では、夏期休業中に調査結果の分析や学力向上の取組等について研修を行い、2 学期以降の授業改善につなげられるように取り組んでいます。

教育委員会としては、「枕崎市の授業づくり 3 ポイント」を基にした学習者主体の授業づくり、「市教科部会での授業を通した研修」等の取組を更に充実させ、確かな学力の定着を図ります。

	小学校6年 平均正答率(%)		中学校3年 平均正答率(%)・スコア		
	国語	算数	国語	数学	英語
枕崎市	54	50	59	49	493
鹿児島県	61	55	62	52	476
全 国	60.9	56.4	63.9	57.0	499

※ 中学校英語は IRT（項目反応理論）によるスコア

高等学校体育祭・中学校体育大会視察について

9 月 5 日（土）に市内 2 校の高等学校で体育祭が、13 日（日）に市内の中学校 4 校で体育大会が実施されました。優勝を目指して真剣に競技に取り組む姿、仲間を応援する声、運営を支える役員の献身的な姿、全ての学校で中・高生らしい澁漑とした姿がたくさん見られました。思い出に残る一日になったことでしょう。参観している方々にとっても大変盛り上がる一日になりました。



枕崎高校



鹿児島水産高校



枕崎中学校



桜山中学校



別府中学校



立神中学校

「学びの教室」(LD・ADHD 通級指導教室)

が枕崎中学校に開級しました

9 月 17 日（木）、枕崎中学校に「学びの教室 (LD・ADHD 通級指導教室)」が開級しました。今年度は、枕崎市内の全ての中学校から計 4 人の生徒が所属し、学級がスタートしました。

学びの教室は、自分の学級から週 1 回程度通級し（枕崎中学校以外の学校には担当教師が巡回します）、読み書きの苦手さや、気持ちの整理など、子供に合った学びに取り組むことができます。

小学校にも中学校にも「まなび（学び）の教室」は設置されていますので、興味がある場合は学校に相談し、説明を受けてみてください。

～シリーズ特別支援教育～「特別支援教育支援員」

枕崎市では、全ての学校に特別支援教育支援員を配置しています。本市は、およそ子供 35 人に 1 人の割合で特別支援教育支援員を確保しており、県内でも屈指の手厚い体制となっています。

特別支援教育支援員は、学級で子供たちが少し困ったときにそっと寄り添い、先生よりも子供たちに近い立場で日々支援を行っています。

特別支援教育支援員の日誌には「今日は〇〇さんが△△できるようになりました！」といった喜びの記録が多く綴られています。今後も、誰一人取り残さない、子育てしやすい街づくりを目指し、こうした取組を進めてまいります。